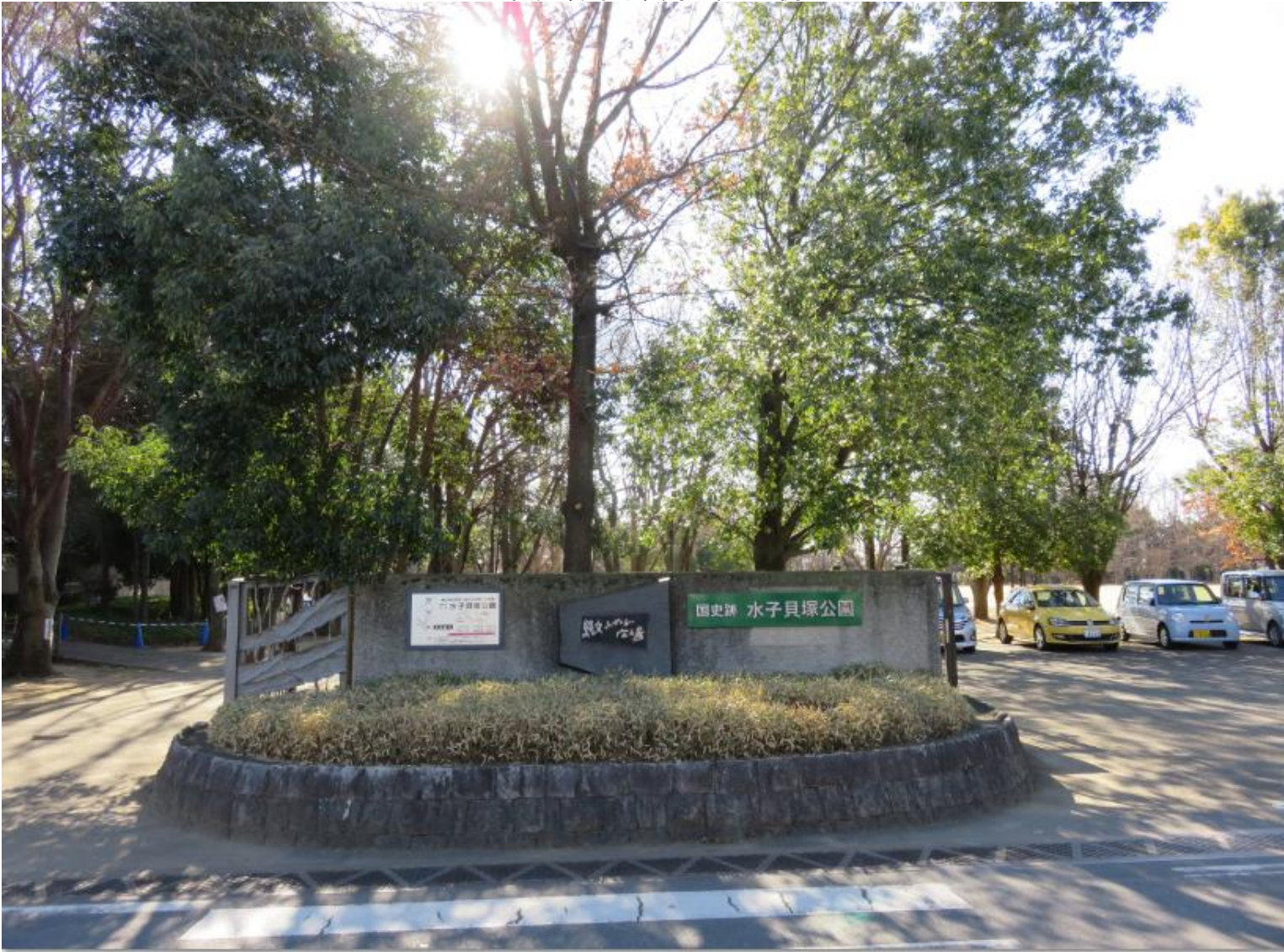


水子貝塚(富士見市)

ここは国史蹟 水子貝塚公園/北側の入口



「史跡 水子貝塚」と記された標柱も立っている



入口の先には説明坂がある



水子貝塚は3回の調査によって約5500年前の縄文時代前期中頃のものと判明

国指定史跡 水子貝塚

富士見市は、日本最大の平野である関東平野の一角にあります。関東平野は富士山などの火山灰が堆積してできた関東ローム層の台地と、利根川や荒川などの大きな川が流れる低地からなります。富士見市は、西半分が武蔵野台地、東半分が荒川低地の上に広がっています。この低地に、縄文時代は海が広がっていました。海の幸を求めて集った人々は台地の上に多くの貝塚を残しました。その中でも最も大規模なものが水子貝塚です。

水子貝塚は、昭和12年(1937)に見され、昭和13年(1938)・14年(1939)・42年(1967)の3回の調査によって縄文時代前期中頃(約5500年前)の小貝塚が多数環状に分布していることや、小貝塚は竪穴住居の跡に貝殻が捨てられたものであることが明らかになりました。



畑だったころの水子貝塚



貝層下土器出土状態



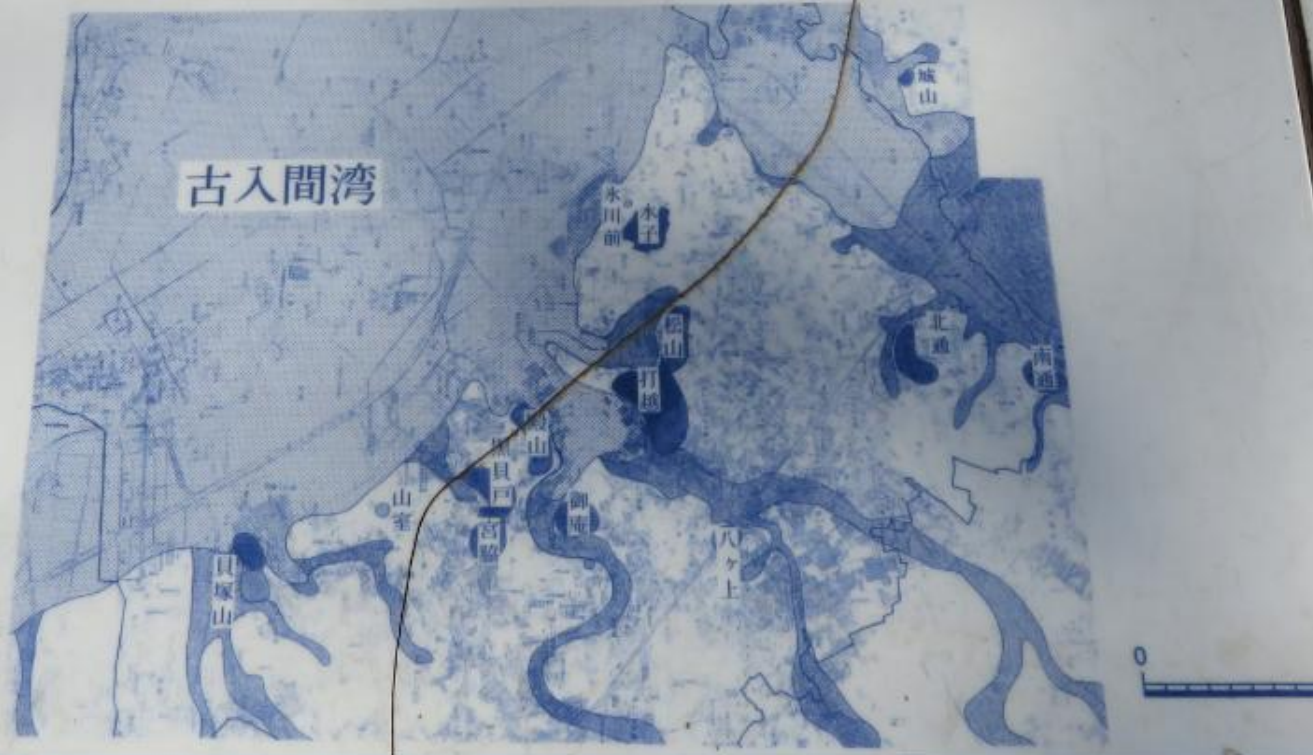
貝層内焚火跡

こんな説明坂もある

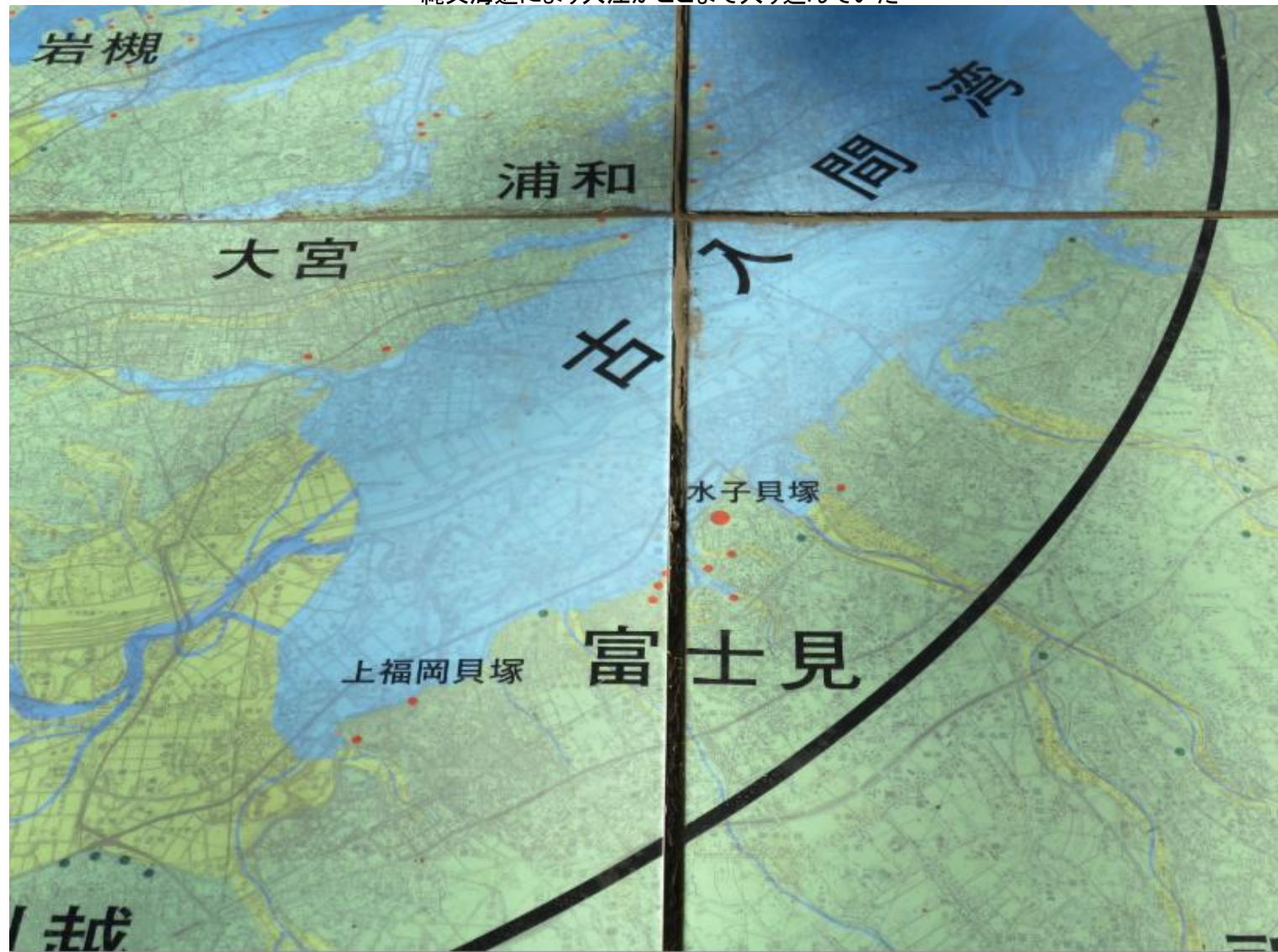


④富士見市内の貝塚

早期の貝塚は6遺跡に有りますが打越^{おつこし}遺跡を除き貧弱です。水子貝塚に先立つ前期前葉の貝塚は江川流域と柳瀬川^{やなせ}流域に6遺跡有り、水子貝塚と同時期の貝塚は江川流域に7遺跡有ります。市内には水子貝塚より新しい時期の貝塚は発見されません。このころに海が後退し始めたようです。



縄文海進により入江がここまで入り込んでいた



上野

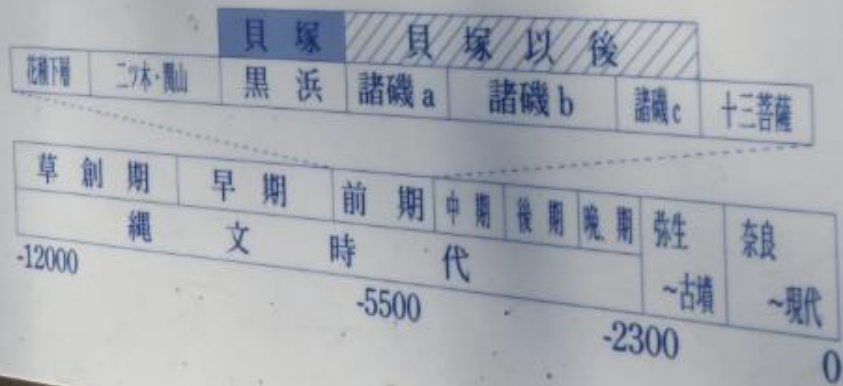
約2万年前は海面が現より低く、約1万年前は海面が現より高くなりました。海が退いて陸地が広がると、この干潟に貝塚を残しました。それに巧みに適応して生活しました。



縄文文化

気候の温暖化は生態系も変化させ、大型獣の闊歩した草原が落葉広葉樹林に変わりました。黒曜石の槍をキラめかせて象を追っていた狩人達は、森の獣を捕らえるために弓矢を發明し、木の実を食べるために土器を發明し、石の斧を磨いて森を切り開き、竪穴住居を建て定住してムラを作り、そして、目の前に広がる海に目を向け、貝を採り魚を漁りました。この豊かな自然に支えられた「縄文文化」は稲作渡来までの1万年間じっくり文化を熟成させました。

水子ムラの時間幅



観状にめぐる、大貝塚遺
 が捨てられたもので、5
 およそ200年間に100軒
 ジミを中心に海・川・
 った多くの村々と交流す
 や、知識や、その他さま



柱形跡に詰まった貝層

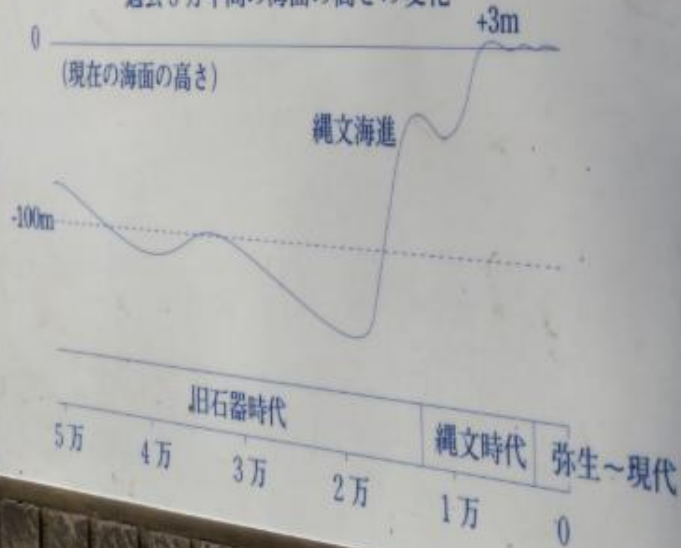


柱の跡に詰まった貝層

縄文海進

地球は寒冷期と温暖期を繰り返しています。約2万年前は
 寒冷で大規模な氷河が発達し、その分海水が減って海面が現
 在より約140m低く、川は深い谷を削っていました。
 気候が温暖化し海面が上昇すると、谷に沿って海が進入し
 ました。「縄文海進」です。海には干潟が発達し、この干潟
 に海の幸を求めて集まった縄文人は多くの貝塚を残しました。
 貝塚は、地球のダイナミックな変動と、それに巧みに適応
 した人類の逞しさを記す、無言の記念碑です。

過去5万年間の海面の高さの変化



が落
 象を
 明し
 森を
 目の
 の、
 1万

花積下

草

-1200

水子貝塚

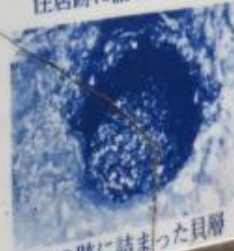
約60ヶ所の貝塚が直径約160mの環状にめぐり、大貝塚遺跡です。貝塚の多くは住居跡に貝殻が捨てられたもので、5~10軒の住居が建ち替わりながら、およそ200年間に100軒近い住居跡が残されました。貝はシジミを中心にし海・川・沼の貝が混ざります。

水子貝塚の人々は山を越え海を渡って多くの村々と交流することで、日々の生活に必要な物資や、知識や、その他さまざまなものを手に入れていました。

水子貝塚貝層分布図



住居跡に詰まった貝層



柱の跡に詰まった貝層

縄文海進

地球は寒
寒冷で大規
在より約1
気候が温
ました。「
に海の幸を
貝塚は、
した人類の

0
(現在の

-100m

5万

こちらは西側の入口



縄文ふれあい広場 (水子貝塚公園)



資料館

展示館

南駐車場

現在地

- ① 水子貝塚
- ② 水子川
- ③ 水子川
- ④ 水子川
- ⑤ 水子川
- ⑥ 水子川
- ⑦ 水子川
- ⑧ 水子川
- ⑨ 水子川
- ⑩ 水子川
- ⑪ 水子川
- ⑫ 水子川
- ⑬ 水子川
- ⑭ 水子川
- ⑮ 水子川
- ⑯ 水子川
- ⑰ 水子川
- ⑱ 水子川
- ⑲ 水子川
- ⑳ 水子川
- ㉑ 水子川
- ㉒ 水子川
- ㉓ 水子川
- ㉔ 水子川
- ㉕ 水子川
- ㉖ 水子川
- ㉗ 水子川
- ㉘ 水子川
- ㉙ 水子川
- ㉚ 水子川
- ㉛ 水子川
- ㉜ 水子川
- ㉝ 水子川
- ㉞ 水子川
- ㉟ 水子川
- ㊱ 水子川
- ㊲ 水子川
- ㊳ 水子川
- ㊴ 水子川
- ㊵ 水子川
- ㊶ 水子川
- ㊷ 水子川
- ㊸ 水子川
- ㊹ 水子川
- ㊺ 水子川
- ㊻ 水子川
- ㊼ 水子川
- ㊽ 水子川
- ㊾ 水子川
- ㊿ 水子川

配置図

縮尺 1/2000





こちらは南側の入口



縄文時代前期（約5500年前）の貝塚
国指定
史跡 **水子貝塚公園**



利用案内

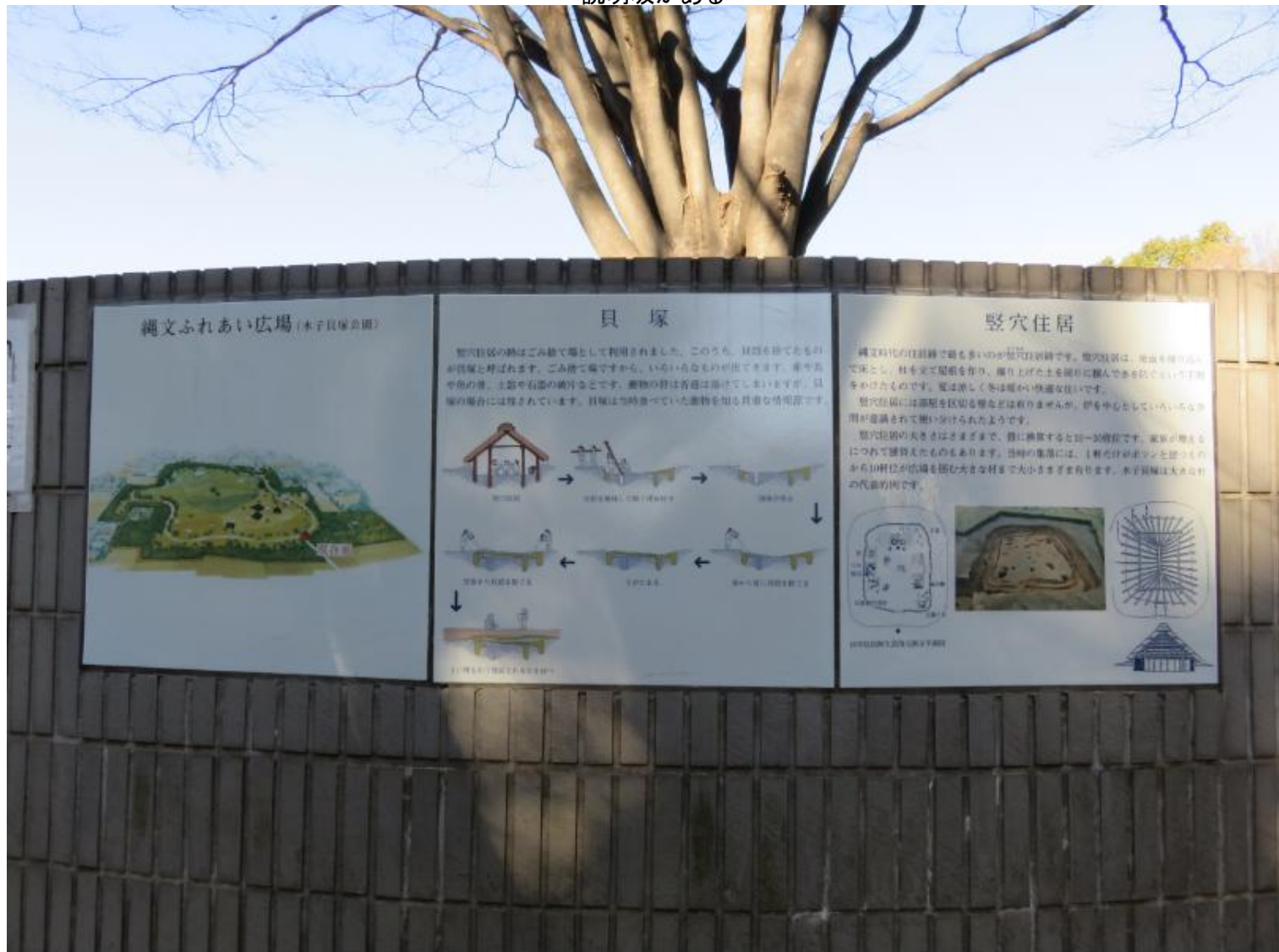
4月～9月	午前9時～午後6時
10月～3月	午前9時～午後5時

時間外は閉鎖いたしますのでご了承ください

- お願い
- ゴミ類は持ち帰ってください。●自転車乗入れご遠慮ください。
 - 犬の放飼い禁止。フンは飼主が責任を持って片づけてください。
 - 火気の使用や、公園施設等を損傷する行為はしないでください。



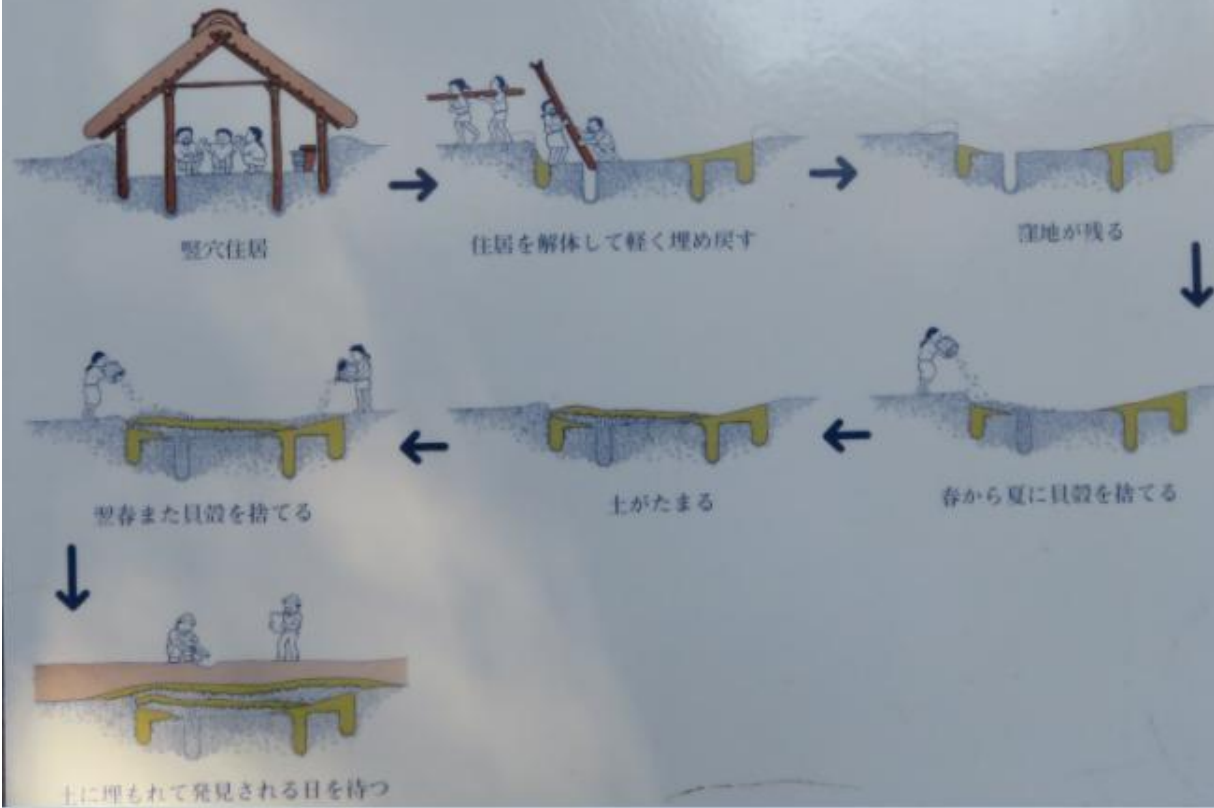
説明坂がある





貝塚

竪穴住居の跡はごみ捨て場として利用されました。このうち、貝殻を捨てたものが貝塚と呼ばれます。ごみ捨て場ですから、いろいろなものが出てきます。獣や鳥や魚の骨、土器や石器の破片などです。動物の骨は普通は溶けてしましますが、貝塚の場合には残されています。貝塚は当時食べていた動物を知る貴重な情報源です。



竪穴住居

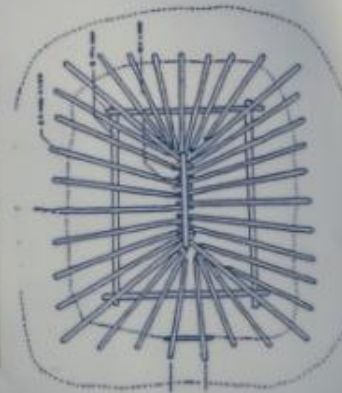
縄文時代の住居跡で最も多いのが竪穴住居跡です。竪穴住居は、地面を掘り込んで床とし、柱を立て屋根を作り、掘り上げた土を周りに積んで水を防ぐという手間をかけたものです。夏は涼しく冬は暖かい快適な住いです。

竪穴住居には部屋を区切る壁などは有りませんが、炉を中心としていろいろな空間が意識されて使い分けられたようです。

竪穴住居の大きさはさまざまで、畳に換算すると10～30畳位です。家族が増えるにつれて建替えたものもあります。当時の集落には、1軒だけがポツンと建つものから10軒位が広場を囲む大きな村まで大小さまざまあります。水子貝塚は大きな村の代表的例です。



15号住居跡生活復元展示平面図



公園内には幾つもの竪穴住居が復元されている



2号復元住居



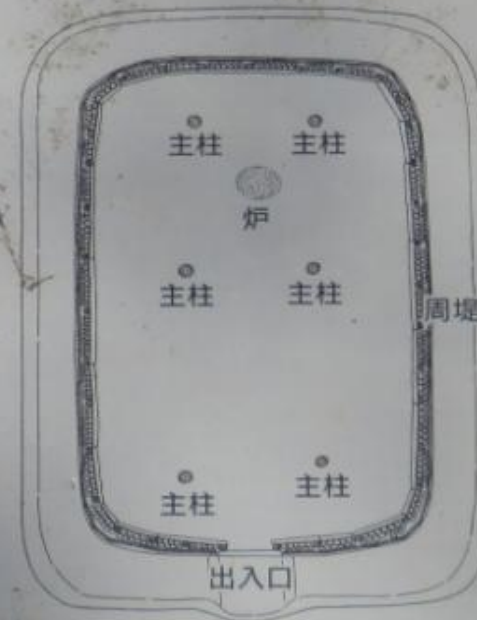
2号復元住居

■ 規模 きば おくゆき 奥行7.2m、はば 幅4.6m、ゆかめんせき 床面積35m²

■ 構造 こうぞう たてあしきじゅうきよ 竪穴式住居、しゅちゆう 6本主柱、よせむねかや 平面長方形、屋根寄棟茅葺き

■ 昭和13年(1938)に東京考古学会によって調査された2号住居跡を、実際に発掘された場所の上に復元しています。住居内にはヤマトシジミを主体とした貝塚がありました。

■ たいせつなたてものです。屋根にのぼる・屋根の茅をぬく・ポールをぶつけるなど、たてものをキズつけることは、おやめください。





1号復元住居



1号復元住居

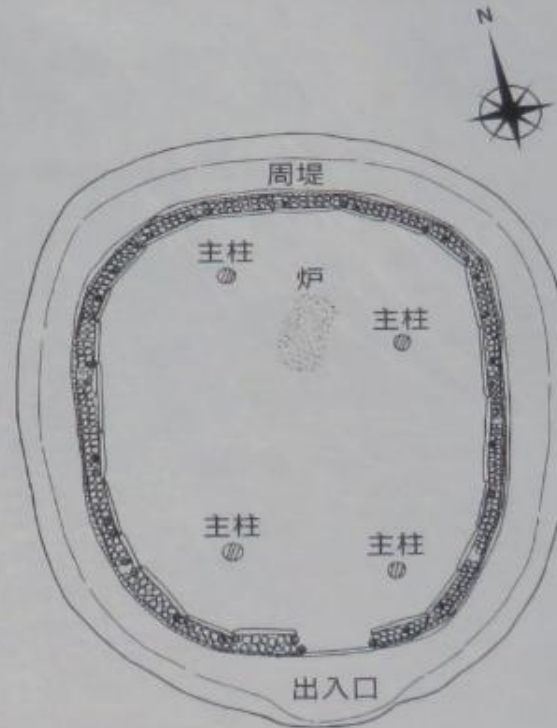
■ 規模 きぼ 奥行4.7m、おくゆき 幅3.9m、はば 床面積約18㎡ゆかめんせき

■ 構造 こうぞう 竪穴式住居、たてあなしきじゆうきょ 4本主柱、しゅちゅう 平面：長方形、よせむねかやぶ 屋根：寄棟茅葺き

■ 昭和13(1938)年に東京考古学会
によって、水子貝塚では初めて調
査が行われた住居跡の上に復元し
ています。

住居内にはヤマトシジミ・カキを
主体とした貝層かいそうがありました。

★たいせつな建物です。たてもの 屋根やねにのぼる・
やね 屋根の茅がやをぬく・ボールをぶつける
など、建物たてものをキズつけることは、おや
めください。



15号復元住居



15号復元住居

- **規模** き ぼ 奥行7.7m、幅6.5m、床面積約50㎡
- **構造** こうぞう たてあな ほんしゅちゅう よせむねかや 竪穴式住居、4本主柱、平面長方形、屋根寄棟茅葺き
- 発掘調査された15号住居跡の上に復元しています。15号住居跡からは貝塚のほか、埋葬まいそうされた女性や犬の骨、たくさんの土器や石器が出土しています。15号住居跡の実物大模型や出土した土器などの資料は、水子貝塚展示館みすこかいづかで展示しています。この住居の中は、縄文人じょうもんじんの家族の生活を再現しています。
- たいせつなたてものです。屋根にのぼる・屋根の茅かやをぬく・ボールをぶつけるなど、たてものをキズつけることは、おやめください。



17号復元住居



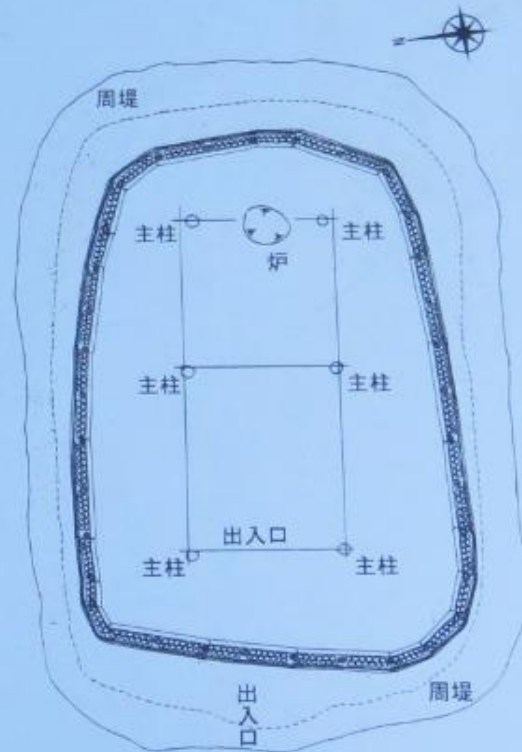
17号復元住居

■規模：奥行^{おくゆき}8.0m、幅^{はば}4.9m、床面積約28m²

■構造：竪穴式住居^{たてあなしきじゆうきょ}、6本主柱^{しゅちゆう}、平面：長方形、屋根：寄棟茅葺き^{よせむねかやぶ}

■平成3（1991）年の富士見市教育委員会による調査では、17号住居が構築され、^{はいき}廃棄後、同じ位置に半分の大きさに縮小された16号住居が構築されたことがわかりました。この復元住居は、実際に発掘された17号住居跡をモデルに復元した建物です。

★ ^{たてももの}たいせつな建物です。^{やね}屋根にのぼる・
^{やね}屋根の茅をぬく・^{かや}ボールをぶつけるなど、
^{たてももの}建物をキズつけることは、おやめください。



6号復元住居



6号復元住居

- 規模 きぼ 奥行5.3m、おくゆき 幅4.5m、はば 床面積23m²ゆかのめんせき
- 構造 こうぞう 竪穴式住居、たてあなしきじゆうきよ 4本主柱、しゅちゆう 平面：台形、よせむねかやぶ 屋根：寄棟茅葺き

- 昭和42(1967)年に富士見町教育委員会によって調査された住居跡を、実際に発掘された場所の上に復元しています。
住居内にはカキ・ヤマトシジミを主体とした貝塚かいづかがありました。

★たいせつな建物です。たてもの 屋根やねにのぼる・やね 屋根かやの茅をぬく・ボールをぶつけるなど、たてもの 建物をキズつけることは、おやめください。



こんな塩梅で復元されている



この“白いエリア”は地上から貝塚の分布が分るように、貝の分布に合わせて陶片を埋め込んだもの



公園内に点在する白いエリアの下に貝塚がある



さて、ここは水子貝塚資料館



幾つもの土器が展示されていた



こちらは水子貝塚展示室



脇にはこんなものもあった



館内中央には、15号住居跡・16号住居跡の発掘状況が再現された状況が展示されている





P形内展示は、水子貝塚で発掘された15号住居跡と16号住居跡の発掘調査の状況を再現したものです。

平成15年住居跡は発掘された後、400年以内の地層まで掘り下げたところ、縄文時代の土壌、結果として本学館を所収する館内展示に展示せしめる体積から、発掘された住居跡の土壌、は発掘の状況に再現された。古い縄文時代の住居跡の状況に再現された。古い縄文時代の住居跡の状況に再現された。古い縄文時代の住居跡の状況に再現された。

縄文時代住居跡の再現



本学館の展示は、発掘された住居跡の状況を再現したものです。古い縄文時代の住居跡の状況に再現された。古い縄文時代の住居跡の状況に再現された。古い縄文時代の住居跡の状況に再現された。

円形内展示は、水子貝塚で発掘された15号住居跡と16号住居跡の発掘調査の状況を再現したものです。

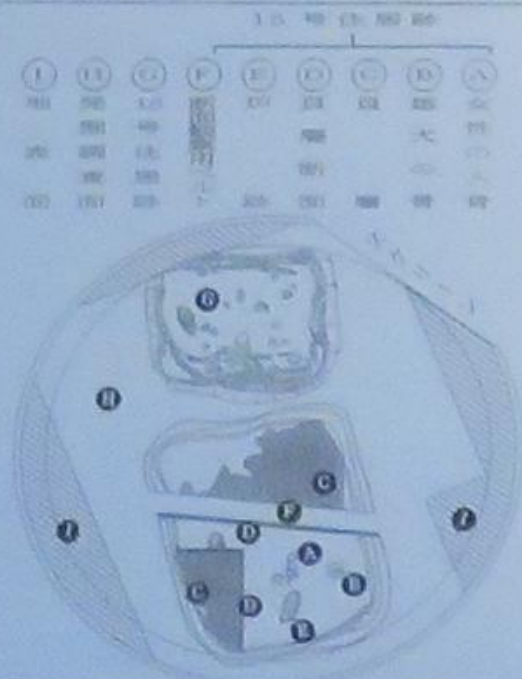
手前の15号住居跡は貝層をむき出しにし、4分の1を床面まで掘り下げたところで、縄文時代に多い、屈葬とよばれる手足を折曲げた姿で貝殻の中に葬られていた30歳から40歳ぐらいの女性の人骨と、住居跡の柱穴に埋葬されていた、若い雄犬の骨が出土した状況を再現してあります。

奥の16号住居跡は、すべて掘り上げた状態です。

発掘された住居跡はすべて埋め戻し、国指定史跡地内は遺跡保存のため全体に土盛りをした上で、住居跡には竪穴住居を復原してあります。

5種ある竪穴住居の中で、縄文時代の生活様式を再現した人形が飾っているのが、実際の15号住居跡です。

発掘調査状況再現展示図



縄文海進

—富士見に海があった頃—

地球は約10万年の周期で寒冷期と温暖期を繰り返しています。約2万年前は寒冷期のピークで、氷河が発達し、その分海水が減ったため海面が現在より低く、海に流れ込む川は深い谷を削っていました。気候が温暖化し海面が上昇すると、谷に沿って内陸深く海が侵入しました。これを「縄文海進」とよびます。温暖化が頂点に近付き海進の勢いが衰えると、川の堆積作用で海に土砂がたまり、次第に埋立てられ、干潟が発達し、貝や魚が繁殖しました。この水産資源を求めて集まった人々が「貝塚」を残しました。

富士見市内には縄文時代早期後半～前期前半（約8000～5500年

前）の貝塚遺跡が15ヶ所あります。早期後半の貝塚は小規模で貧弱ですが、前期の初め頃は打越遺跡を中心として多くの貝塚遺跡が栄えるようになりました。打越遺跡が衰えるのと入れ替わるように現れた前期中頃の大貝塚が水子貝塚です。この時期にも多くの貝塚が有ります。しかし、前期後半になると突然貝塚が無くなります。当時は荒川と利根川を合わせた大河が現在の荒川流域に流れていましたが、この大河によって海が埋立てられたのです。海が埋まりきる直前は、遠浅の干潟が発達し、貝や魚の繁殖に絶好です。水子貝塚は「富士見市に海があった時代」の最後を飾る華でした。

縄文海進図

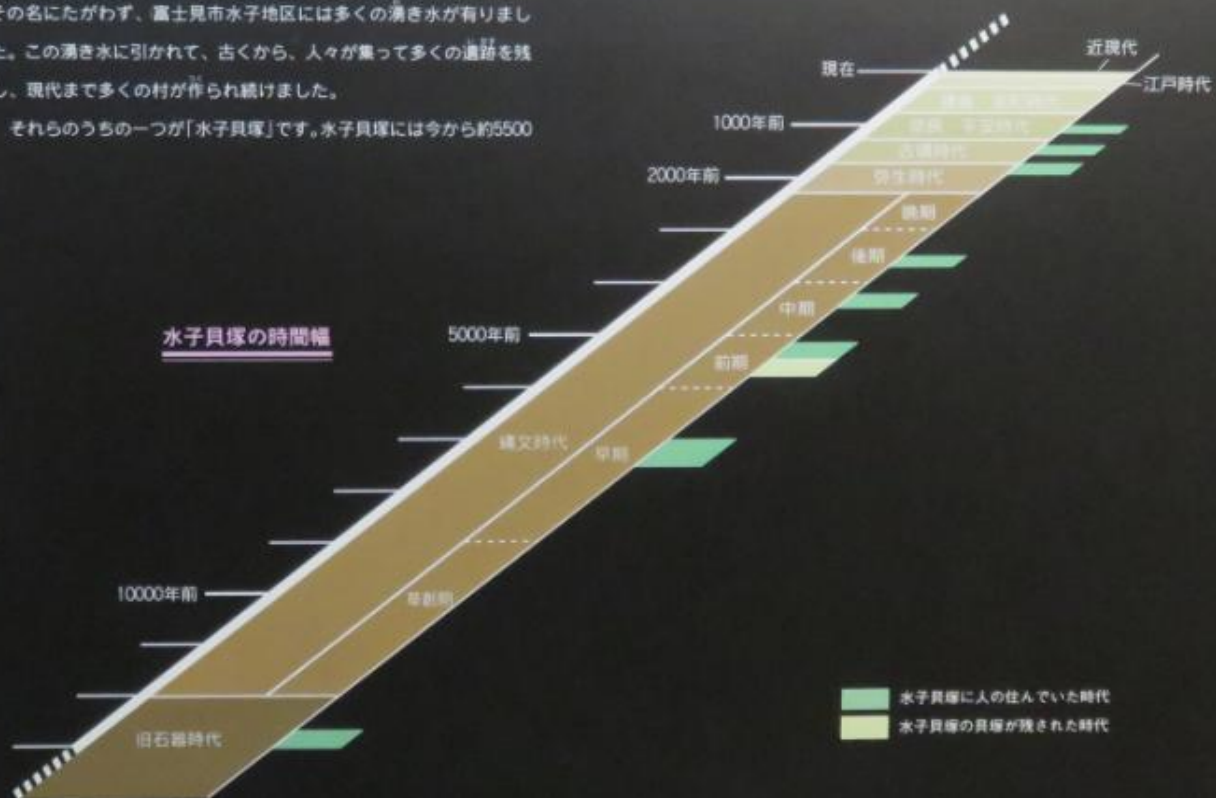


みずこかいづか 水子貝塚

“この場所”が「ここ」、”その場所”が「そこ」という具合に、「こ」という言葉には“場所”という意味があります。「水子（みずこ）」という地名には「水が有る所」という意味が含まれています。その名にたがわず、富士見市水子地区には多くの湧き水が有りました。この湧き水に引かれて、古くから、人々が集って多くの遺跡を残し、現代まで多くの村が作られ続けました。それらのうちの一つが「水子貝塚」です。水子貝塚には今から約5500

年前、縄文時代前期と呼ばれる時期の貝塚を中心に、旧石器時代、縄文時代、弥生時代、古墳時代、平安時代など、多くの時代の活動の跡が残されています。

水子貝塚の時間軸



参考ホームページ

<http://bunka.nii.ac.jp/heritages/detail/137964>

<http://www.knet.ne.jp/~ats/t/park/o3/mizu.htm>

<https://www.travel.co.jp/guide/article/19937/>

<http://inoues.net/ruins/mizukokaiduka.html>

<http://www.asahi-net.or.jp/~XN9H-hysk/mizuko/main.htm>

